

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1490100045
法人名	社会福祉法人 うしおだ
事業所名	グループホームひまわりの家
訪問調査日	2018年11月22日
評価確定日	2019年2月15日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490100045	事業の開始年月日	平成19年4月1日	
		指定年月日	平成19年4月1日	
法人名	社会福祉法人 うしおだ			
事業所名	グループホーム ひまわりの家			
所在地	(〒230-0047) 神奈川県鶴見区下野谷町4-163-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成30年11月6日	評価結果 市町村受理日	平成31年3月8日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住み慣れた地域で、入居者の一人ひとりがその人らしく生き生きと笑顔で過ごせるようお手伝いします。」という理念の実践を大切にすると共に最後の看取りまでケアさせていただいています。診療所・病院との連携があり、健康管理を行っています。地域とのつながりを大切に行事にも積極的に参加していくようにしています。また、個別対応での外出企画、ボランティアの音楽会なども参加しています。日頃の介護実践をまとめ発表したり、研修会に参加し質の向上を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成30年11月22日	評価機関 評価決定日	平成31年2月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人うしおだの経営です。母体の公益財団法人横浜勤労者福祉協会汐田総合病院を中心とした医・福祉のネットワークを鶴見区中心に展開し、グループホーム、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援、障害者福祉サービス等を運営しています。ここ「グループホームひまわりの家」はJR鶴見線「鶴見小野駅」から徒歩5分程にあり、駅前には再開発が進み、同一法人が運営している福祉施設も近くにあり、水害を想定して避難訓練を行う等の連携も図っています。

●事業所の理念に「住み慣れた地域で、入居者ひとり一人が、その人らしく生き生きと笑顔で過ごせるようお手伝いします」を掲げ、玄関並びに事務室に掲示し、理念を、トラブルやケアに迷った時に、話し合うことで原点に立ち返り、理念の実践に繋げています。ケアについては、年月を重ねると共に利用者の重度化も進み、看取り介護の対応も増えると考えています。管理者は、看取り介護は日常の介護の延長線に位置するごく普通のケアであり、「今生きている時間」を大切にすること、食事、排泄、清潔、体位交換などの援助時は、明るく、優しく、穏やかに声をかけながら、その方の最期に寄り添うことの大切さを職員に伝えています。

●地域との関係は、町内会に加入し、神輿、盆踊り、運動会、敬老会、餅つき等の地域行事に参加しています。また、下野谷4丁目町内会と防災協定を取り交わしており、事業所の防災訓練に地域の方達の参加も得て協力体制を確認しながら実施しています。汐田総合病院の研修医の体験学習を受け入れている他、大正琴、体操、バンド演奏と歌の披露など、多くの地域ボランティアの方の来訪もあります。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームひまわりの家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目の前のケアにおわれているが、理念の実践をする方向は共有できている。地域への商店街での買い物や行事の参加を行なっている。	開設時に作成した理念「住み慣れた地域で、入居者ひとり一人が、その人らしく生き生きと笑顔で過ごせるようお手伝いします」を、玄関と事務室に掲示しています。理念を、トラブルやケアに迷った時に、話し合うことで原点に立ち返り、理念の実践に繋げています。また、個人目標は、年2回(2月と7月)の定期面接時に、確認しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物でも常に意識し、あいさつや交流の機会を大事にしている。	町内会に加入し、盆踊り、運動会、敬老会、餅つき等の地域行事に参加して交流を深めています。地域のボランティアでは、大正琴、体操、バンド演奏と歌の披露してくださる方や、汐田総合病院の研修医の体験学習の受け入れも行っています。更に、うしおだ診療所内で月1回開かれる認知症カフェに、利用者と一緒に参加しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症という病気をかかえてもなじみの関係はできる限り継続しようとしている。今までと変わらないあいさつをすとか。認知症カフェの参加で交流をする。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種からの意見やアドバイス、行事など取り入れている。	運営推進会議は、2ヵ月毎(奇数月)に、地域代表、地域ケアプラザ、利用者の家族、本部理事、グループホーム菜の花の家管理者の構成で開催。会議は、入居者の状況、主な活動・出来事、事故報告、職員の異動、今後の活動予定、連絡事項等を報告しています。入居者の看取り介護、水害時の訓練、防災訓練の内容追加等に関する貴重な意見を頂き、運営に生かしています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問時の情報提供や文章での報告などがあります。	地域ケアプラザと定期的に連絡・報告を行い、鶴見区役所の高齢者担当とは、研修会への参加、要介護認定、事故報告などの情報交換・連携を取っています。また、生活保護受給者の受け入れを行っている関係で、保護担当とも必要に応じて連絡を取り合っています。市社会福祉協議会のスタッフとは、介護福祉研修会等で交流があります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会、委員会を通し学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束に該当する行為や言動、弊害等について話し合い、身体拘束の無いケアに努めています。法人や外部の研修に参加した際には、レポートを提出し、他職員への情報共有しています。1階に小規模多機能が入っているため、建物の入り口は施錠せず、3階のグループホーム玄関はドアに鈴を付け、出入りの際は、職員が気づくよう工夫しています。今後、防犯上の観点から、夜間は玄関をPM7：00以降に施錠する予定です。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会に参加し学ぶ機会をつくり、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中には、活用し入居できている方が多いが、制度についての学習は不十分。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得されていると思う。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中での意見や面会時などでも話し易い雰囲気心がけている。	利用者や家族等からの意見や要望は、面会時や運営推進会議、事業所の行事の際に聞くようにしています。毎月の請求書と合わせて、事業所で発行している「ひまわり新聞」や利用者の生活状況等を記載した書類を同封し、近況報告しています。意見を表しやすいよう、玄関先に「意見箱」を設置していますが、直接言ってくれる方が多く、ほとんど活用されていない状況です。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議の中で意見や提案を聞くようにしている。	月1回の職場会議では、内容問わずに、活発な意見交換が行われています。意見や提案で、すぐ対応出来ることについては、すぐに反映させています。法人対応を要する課題は、管理者会議で報告し、検討後に結果を職場会議で伝えています。また、年に2回実施している個別面談では、自己目標の振り返りと共に意見等も聞いています。誤薬防止の提案で、朝の投薬を、夜勤担当者から早番担当者に変更や、薬剤師の協力を得て、投薬の袋に、朝・昼・夜の区別が明確になる色のラインを入れるようにしました。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各部署に目配り、配慮していると思います。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への積極的な参加を通して質の向上を目指しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会への積極的な参加を通して質の向上を目指しています。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問を行なうようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と会話をし、家族の思いや苦労話など話し易い雰囲気を作り、耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症デイケアを継続する人はいるが、他のサービスは受けていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活面でも協力してもらったり、教えてもらう事が多い。認知症という病気をかかえているが、ひとりの人として、人生の先輩として思いやりを持って接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族水入らずの時間を大切にしたいと思い、見守っていきたいご家族も入れば、何とか面会だけでもしてほしいと思うご家族もいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた場所に散歩に出かけたり、ご家族と自宅に帰り食事をしたりする機会をつくっています。	横浜勤労者福祉協会友の会の月1回開催の「ふれあい給食」で、馴染みの方に会えることを楽しみにしている方や、美容院に行き話をするを楽しみにしている方、毎月ご家族と外出や食事をされる方等、個々に合わせた対応で馴染みの関係を継続できるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの入居者が関わりあえるよう見守っている。ケンカやトラブルになりそうときは介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なかなか難しい。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとり一人の思いや希望の把握に努めようとするが、困難な方の場合、職場か会議のカンファレンスで情報共有するようにしている。	日々の支援の中で、心身の情報、本人の能力、本人からふと漏れる言葉、家族の発言、職員の対応、ケアのヒントや工夫などの出来事を、時系列に個人ケース記録に記入しています。変化があった事象は、「申し送りノート」に記入し、情報を共有しています。希望や意向の把握が難しい場合は、職場会議で情報を共有しながら、本人本位に検討しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中の会話から把握していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職場会議の中で情報共有しながら把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状のケアから、モニタリング、課題を計画しているが、ご家族、本人からのモニタリングが不十分と感じている。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成して、1ヶ月程経過観察します。その後、家族の意見、介護サマリー、受診記録、看護記録等を基にモニタリングを行い、3ヶ月毎の見直し、6ヶ月毎に更新しています。また、ケア会議は毎月実施し、職員全員の意見を聞きながら、現状に即した介護計画作りに努めています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録にしている。また、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに生かす努力はしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前からの嗜好を取り入れ、個別対応する中で本人の気持ちを引き出そうと機会をつくっている。たまにだが、外食時に好きなお酒を飲んだり、夕食後にお酒とつまみでくつろいで団欒の時間を持ったりしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友の会のふれあい給食への参加（1回/月）			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所との連携で入居者の健康を支えている。	本人、家族の意見を尊重し、通院や往診を行なっています。現在、利用者全員が、うしおだ診療所で受診しており、月2回の往診の方と月1回通院の方がいます。休日、夜間などの緊急時対応は職員から管理者に連絡し、管理者から汐田総合病院に連絡しています。電話での対応が困難な場合は、汐田総合病院に搬送します。訪問看護は系列の訪問看護ステーションと契約し、週1回の対応です。歯科はうしおだ診療所で受診し、現在、2名が毎月、他の利用者は年1回受診しています。健康診断を始め、インフルエンザの予防接種等も含め、医療環境も整っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の報告があり、主治医や診療所ナースへの状態報告を行いアドバイスや指示を受けて直接支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけそうするように努めている。定期的に会議に参加している事等もありつながりがある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院等を契機に話し合いの場を持ち確認を行い支援するようにしている。	家族やかかりつけ医とは随時話し合い、利用者・家族の意向に沿った終末期のあり方を共有し、看取りを行っています。グループホーム連絡会で開催される看取りに関する研修は参加し、職員会議で発表し、職員間で知識の向上を図り、チームとして支援に取り組んでいます。法人で医療機関を運営しており、医療問題は、緊急時を含め、的確に対応できるところが事業所の強みです。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ノロウイルス発生時の研修会参加と実践訓練等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練・水害訓練等定期的に行なっている。	近隣地域と防災協定を結んでいます。防災訓練は、年3回実施。火災訓練は消防署立会いの下、年2回、4階建て法人ビル全体で、地域消防団、本部役員、建築業者も参加して、実施しています。年1回の水害訓練は、鉄筋4階建ての法人ビルを避難場所とし、近くにある法人の他グループホーム等と共同で実施しています。また、災害時用の備蓄品は法人が一括購入し、事業所で3日分程の備蓄品を保管しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを意識し、人格を尊重した言葉かけや対応をしようと努力しているが、トイレ介助の際のドアの開けっ放しやトイレに行きましょうなどの言葉かけが出てしまっている事もある。個々に合わせた声かけがある。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保に留意した言葉掛けや対応を心がけています。排泄誘導は、「排泄チェックリスト」を参考にし、他者に聞こえないよう耳元で声をかけ、トイレ誘導をしています。食事介助は、「今日は良く召し上がれましたね」のように敬意を払っています。名前の呼び方は「名前」にさん、「苗字」にさん付けを基本としています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけているが、こちらが決定している事が多々ある。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いはあるが、職員の都合を優先している場面が多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のお化粧品のお手伝いやカットなどの声かけを行なっている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、かたづけを一緒に行なっている。	食事のメニューは、利用者の希望やバランスを考慮しながら作成し、食材を近くの商店街まで、買物に行っています。調理は職員が行っていますが、出来る方には事前準備や片づけを、手伝っていただいています。外食は、リクエストが多い蕎麦、ラーメン、親子丼などを食べに行っています。行事に合わせて様々な特別食を取り入れており、利用者の楽しみになっています。12月の家族会・クリスマスにはお寿司を食べることにしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の取れない人には、ゼリーを提供したり、食べ急ぎがあり誤嚥のあった人には、プレートを活用したり個別に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる人はなるべくやってもらい、できない人は介助しているが十分にできないため歯科往診等の協力も得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別のトイレ介助を行なっている。	排泄チェックリストを活用し、他の利用者に気づかれないように耳元で声かけて誘導を行っています。昼は、可能な限り布パンツで生活してもらえるように支援しています。機能回復を兼ね、生活リハビリを行い、自立排泄につなげるよう努めています。便秘対策では、水分を多く摂取してもらうように留意しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の飲水をしているが、数名効果が出ている。歩行、食物繊維や乳製品を取り入れているが、下剤内服者がほとんどの状況。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	している人もいるが、希望やタイミングが判断出来ない方が多い。	入浴は2日に1回のサイクルですが、希望する場合は、適宜対応しています。入浴時間は、10時～12時、13時30分～15時としています。入浴拒否のある方は、声かけのタイミングを変えたり、入浴剤を使用しながら入浴を促しています。季節に応じた菖蒲湯やゆず湯も行い、季節感を感じてもらえるようにも支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ本人のペースを尊重し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日誌に個々のお薬の名前、写真、飲み方、効能効果、注意事項の書かれた用紙を入れているため、必要時確認ができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	すべての入居者には出来ていないが、嗜好品をとり入れ生活に楽しみを持ってもらえる機会をつくらせている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではないが、希望にそってなじみの場所に外出したりする事もある。	日常の外出支援では、利用者のADLに合わせた散歩コースに出かけ、近くの桜並木、民家の花壇の見学、下野谷町第二公園や駅近くの商店へ買い物等に出かけています。介護度の高い方は、日光浴を中心に外気に触れることが出来るよに配慮しています。事業所の行事や町内の行事への参加もあり、正月は近隣の小野弁財天神社に初詣、潮田祭り、駅ビル屋上、法人の関連診療所の健康祭り等に外出しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持しているが、使えない人。食事会やカットに行ったときなど本人のお財布から出してもらうようにするなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夫に電話をした人がいたが、現在はできていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節間を味わえるよう、季節に合った飾り付けをしたりしている。	共用空間は天井が高く、窓も広く、外光が取り入れやすい造りになっており、明るい間取りになっています。廊下も広く、車椅子を並行して動かせる幅が確保されています。リビングの飾り付けは、季節に合わせた作成した利用者の作品等を飾り、季節感を演出しています。壁には行事の写真等も飾られ、会話のきっかけ作りになっています。また、リビングで飼育されている亀や金魚も利用者の癒しになっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファやソファベッドのくつろげるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きなものが置いてある人もいるが、そうでない人もいます。	エアコン、介護用ベッド、クローゼット、防災カーテンは備え付けとして完備されています。入居時には、これまで使い慣れた思い出の品や調度品を持ち込んでいただくことを勧めています。整理ダンス、鏡台、人形、机、ぬいぐるみ等の様々な物が持ち込まれ、利用者が居心地よく安心できるように設えています。居室内は清掃が行き届き、寝具の定期的な交換や乾燥にも気をつけています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはやってもらうようにしているが、介助しすぎているところも多いと思う。		

目 標 達 成 計 画

事業所

ひまわりの家

作成日

2018年11月22日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているとはいいがたい。	本人・ご家族思いや意向の把握をしながらケアしていく。	ご本人・ご家族との会話を大事にし、思いや意向を確認していく。	1年
2	48	役割・楽しみごとの支援が充分とはいえない。	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をする。	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換などの支援を見直し確認していく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。